



会報

59号

デザイン 池田満寿夫

ながの

発行人 荒井 公

編集長 井澤一幸

2月末現在賛助会員数 長野地区 450人 県全体 2,047人

# 令和3年度 シニア大長野学部募集始まる

## 昨年度一年間の休校を経て

猛威を振るっていたコロナ感染拡大の第三波が襲い二度目の緊急事態宣言が発令されて日本国民は我慢の時を過ごした今、感染が減ってレベルが下がっています。

また、コロナワクチンの接種がようやく始まったことにより、これまで長かった暗いトンネルの先に希望の光が見えてきました。

長野県シニア大学では、新年度に向けて学生募集案内が始まりました。尚、長野学部の会場は、変更になりました。

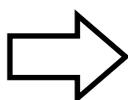
- ・開校予定 5月
- ・会場 長野保健福祉事務所3階(変更)
- ・住所 長野市中御所岡田98-1 ☎026-228-7023
- ・募集人数 若干名
- ・感染レベルによっては、休講やカリキュラムが変更になる可能性があります。
- ・感染対策をして安心して受講していただくよう努めます。

社会活動推進員 大脇 香織

会場の定員を減らして募集



旧会場



新会場の長野保健福祉事務所

## コロナ禍の賛助会

日本の観光は、外国人観光客で溢れかえっていたのがつい昨日の事の様に思い出されます。一変して昨今は閑古鳥がなく不景気に観光業者はあえいでいます。観光に限らずあらゆる場面で経済活動が停滞している状況にあります。これは中国武漢市が発生源とされる、新型コロナウイルスによる流行性肺炎が瞬く間に世界中を覆い尽くしたことにあります。

政府の「非常事態宣言」により、不要不急の外出禁止及び「密集・密接・密閉」の「3密」防止の励行など人々の行動は大きく制限されることになりました。長野地区賛助会及び各グループの活動も同様で、多くの事業計画が中止等の憂き目を見ることになりました。令和2年度の定期総会も文書により開催されることになり、幹事会も10月の1回のみとなりました。

「賛助会員の集い」をはじめ計画した事業は全て中止となり、活動の休止を余儀なくされたグループも多くあったようです。こんな2年度も残りわずかとなり3年度を迎えます。

猛威を振るっていた、コロナ感染第3波も徐々に衰退の方向にあり、長野県に於いても警戒レベルを「1」に引き下げるなど平常時を取り戻しつつあります。また、感染防止の決め手となるワクチン接種がいよいよ長野県で2月18日に医療従事者を皮切りに開始されました。賛助会員の皆様も6月頃までには第一回の接種が受けられる見込みです。

明るい兆しが見え始めた令和3年度の賛助会の事業計画では、コロナ感染防止対策に努めながら例年通り実施したいと考えております。3月の4役会・4月の幹事会を開催することにしていきますので、ここでの計画を充分検討していただき3年度の事業活動が円滑に運ばますよう皆様のご協力をお願いするところであります。改めて新型コロナウイルスの感染は充分気をつけてくださるよう心からお願い申し上げます。



長野地区賛助会副会長 丸山 栄洋

# 令和2年度 高齢者作品展優秀作品展示会

令和2年度 高齢者作品展優秀作品展示会が、長野県立長野図書館で開かれました。今回はコロナ禍で信州ねりんピック式典等は開催中止となってしまいましたが、作品展には133点の応募があり、審査会によって各賞が決まりましたので、その一部を紹介します。



優秀作品展示会場



日本画の部「ひかれる自然」小林 万里様



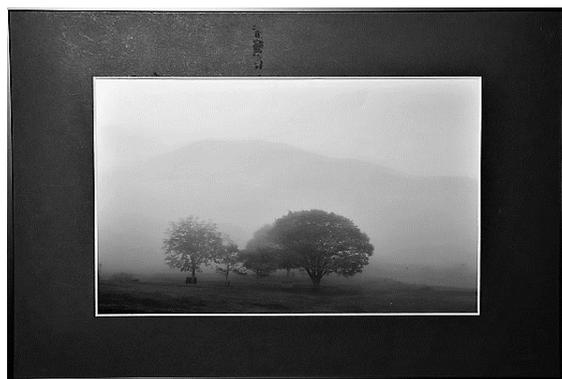
彫刻の部「薬師三尊像」小松 春夫様



手工芸の部「初雪の朝」加藤 庄三様



写真の部「望月に想う」矢澤 敬治様



写真の部「幻」澤田 進様

# グループ活動紹介

## 「シニア 38 書道」

平成 26 年度から二年間、シニア大学に在籍し、実技講座の一つ「実用書道グループ」で学んで、平成 28 年春に書道サークルを立ち上げました。

昨年「賛助会」に加入し、毎月二回（第二・第四水曜日）二時間、活動の場所は、ホクト文化ホール南側の長野市「中央隣保館」です。

平成 28 年～ 29 年度は、漢字（中国千文字）を中心に、そしてここ三年間は、山崎洋子先生のご指導の下、かな交じり文の楷書・行書を中心に研鑽を積んでいます。しかし、この「かな文字」がなかなか手強く、小筆（筆を選んではいけないね）を使うので手と指の震えと緊張感で「これだ!!」と納得できる作品には辿り着けません。この共通課題のほかには、各自が興味を持っている

グループ長 花岡 佳市

て、もっと深めたい課題（小生は小筆で終活ノートを書けたらと思っ  
ています）、或いは年賀状・暑中見舞い・「こだわりの一文字」等の個別課題も、自分のペースで先生のアドバイスを頂いております。

コロナ禍の令和 2 年度は別にして、平成 29 年度からの 3 年間では、毎年「賛助会員の集い」への



出品・シニア大生作品展への友情出品、県庁講堂での「夏休みこども教室」では、児童たちに筆に親しんでもらうブース出店（俄か先生気取り）等々の活動を続けています。

コロナ完全終息後も、会員 16 名と先生で、ワイワイガヤガヤとにぎやかに、発足 10 周年を目指して活動を更に活性化していきたいと思えます。



### 編集後記

昨年一月から始まった、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、一時はどうなるのかと心配していたが、ここにきて日本にもようやくワクチン接種が始まり、長いトンネルの先に光が見えてきた感がある。

高齢者は今まで我慢に我慢をして活動を抑えてきた。早く元の姿に戻りたい切っ掛けでマスクの無い空気を吸いたものだ。